

教委は、双葉給食事件を学校給食の現場や業界にちゃんと知ってもらうために、今回の質問答弁の記録を、各学校の現場に渡していった下さいね。



教委回答：そのようにしていきます。

▲最後に戸田からの指摘として、

(※ この部分は、戸田の記憶による記述なので、実際の発言とはちょっと違う部分もあるでしょうが、言った内容としては変わりません)

そもそも私は、市議当選以来ずっと文教委員をやって来た議員として、「なぜこんな給食現場でのひどい事件を私が知らなかったのか」、という点で非常に恥ずかしく思っています。学校給食の現場に時々足を運んで、現場の人達から話を聞くようにしておくべきでした。

私がこの事件の存在を知ったのは、今年3月末に、たまたま会った門真市民から、全く偶然に「上野口小の給食業者がこんなひどい事してたんですよ。戸田さんは知らないんですか?」、と言われたおかげでした。

議員として赤っ恥をかけた思いで、恥ずかしい限りです。

◎この事件は共産党も市職労も知りませんでした。知っていたら当然大問題にしたはずですから。

「賃金未払いの被害を受け続けた労働者が、戸田や共産党や市職労に相談に行かなかった」、「労働者から頼りにされる存在になっていなかった」、という事を痛感します。

また、賃金未払被害労働者の側が、人がいいと言うか我慢強いと言うか、市教委の職員に対して「自分達のためによく頑張ってくれている」、というプラス評価を持っていた、という事にも驚きました。本来ならば、未払い賃金だけでなく、ストレスをかけられ続けた慰謝料も取るべき事なんですが、日本社会特有の「労働者の権利意識の弱さ」が現れているようにも思います。

そういった反省や感想を述べて、この質問を終わります。

※「議会質問」は、「分からない事を聞く」ことではなく、行政当局に認識を深めさせたり、施策を改善させたり、実行約束をさせたりするための、「追及行動」であり、職員・議員・市民への啓発を兼ねる場合もあります。

いったん「議会答弁」された事は、「市の正式見解であり、議員と市民に対する実行約束」となります。

従って、議会本番以前に、追及議員と当局者との「すり合わせ協議」と言う名の「攻めぎ合い」があります。

※ 議会本番での質問・答弁は、(ほとんどの場合は)既に完成させ、お互いに了解した原稿の読み合わせですが、それは「永久保存する正式の公開記録として議事録に刻む」事に、大きな意義があるのです。 (了)

★戸田が6/14文教委でこいう質問をした狙いやポイントは！



- 【1】誰が、いつ、何をしたのか、どういう判断で動いたのか、事実を詳細に明らかにする。
- 【2】教委が双葉に振り回されて処断が遅れた理由のひとつは、役人が「とんでもなく悪質な業者」の存在を想定していない「経験値の低さ」にあるので、悪質業者の実例を教訓化する。
- 【3】「業者不正が起こっても議員に知らせないで平気」な「まじめな教委職員の異常感覚」を浮かび上がらせる。(宮本市政発足直後の2016年9月議会～12月議会ー1月臨時議会と、宮本市長の暗黒暴政への反発激化していた事と、ホントは無縁で無いはずだが・・・)
- 【4】「門真市で業者不正したら議会でトコトン追及される！」実例を作って見せしめにする。
- 【5】6/22本会議質問でも取り上げて「市全体のレベル向上」につなげる「前振り」にする。

6・22(金)本会議
でやる質問の
通告書
(6・14に提出)

件名3：宮本市政開始直後に双葉給食が賃金未払い発覚で追放の大事件があったのに、議会にも市民にも隠されてきたことについて

- ・上野口小の給食調理業者の「双葉給食」が起こした賃金未払い犯罪の進展と同社の悪質性
- ・この事件の発覚と処理は宮本市長体制開始早々のことで、随時市の法律担当部署と相談し市長決裁で業者変更したのに、議会に全く知らせずきたことを市長部局としても議会で謝罪答弁し、今後は議員への情報隠しをしないこと
- ・市業務遂行の業者に違法行為が発覚すればすぐに議員に伝え、会社名公表して厳しい対処対応を
- ・園部市長時の2016年3月議会本会議で私が「モラルの良い業者が有利になる選定方法の工夫」を質問し、市当局が前向きな答弁をしたのだが、宮本市政になってからは教委も市長部局も意識が低くなっていると思えることについて、など。